（R2年10月　教育振興室）

**《R2年9月18日付け教育委員意見交換会におけるご質問について》**

**府立支援学校の教育環境充実（知的障がい児童生徒の増加対策）の将来推計**

|  |
| --- |
| **○回帰分析・最小二乗法を行ったとあるが、決定係数は如何。**  **一般的に0.6や0.7では、信用度が低いのではないか。** |

○決定係数は1に近ければ当該推計の精度が高いとされるものですが、統計学的に明確な基準はなく、一般的には0.5を超えることが求められると考えております。この点、たとえば0.8であれば、本推計の説明力がとても高く、0.6であれば、他の要因の影響も見込まれるところ、大きな傾向としては十分にトレンド予測として成立していることとなります。

○本件推計における決定係数は、「小・中学部」については0.8、「高等部」については0.6となっています（高等部は年度によって在籍率が大きく変動するため）。

○今回の「将来推計」の結果は、Ｈ28年度の推計値を200人上回る「1,590人」となりました。この「1,590人」のうち、「小・中学部」で1,500人を占めており、決定係数としても、推計式の説明力が高いものとなっています。

○以上のことから、今回の「将来推計」結果は妥当であり、当該結果に基づいて今後の施策等を進めていきたいと考えております。

また、今後も、在籍実績の状況を踏まえて、必要に応じて、見直しを図っていきたいと考えております。